

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276100316		
法人名	特定非営利活動法人 しおさい		
事業所名	グループホームしおさいの家		
所在地	御前崎市池新田7449-1		
自己評価作成日	H27年11月27日	評価結果市町村受理日	平成28年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JivgoVoCd=2276100316-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成27年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

古くからの伝統行事(年越し、正月、節分、雛祭り、端午の節句、七夕、お月見など)を取り込み、入所者の秘めたる発揮する機会を作り日常ではみられない所作を見逃さないようにし、自信を取り戻し、生き生き暮らせるよう支援している。
地域の行事(祭礼、文化祭、産業祭)に参加したり、市内の公園、草花の名所等に出かけ、子供達、市民と交流を深め地域との関係を保持している。夜間外出希望者には、蛍、イルミネーション見物など楽しんでいる。
日常的には、まず生活リハビリの取り組み、食事の下準備、片づけ、洗濯、買物などスタッフ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会の回覧板にはしおさい通信を挟み込んでもらえ、隣近所とのおすそ分けも継続しています。これまで地域に出向いていた数多の行事は変わらず慣行されていますが、重度化により限られた人のみとなっています。一方組織としては世代交代もあり活気づいており、例えば従来は行政が主催していた連絡会を事業者主導としたいとの意向を受け、本事業所が連絡係を担うこともその一つです。「職員になんでも言ってもらえる事業所になりたい」として様々試みるなか、ひやりはっとの提出率は目に見えて向上していて、現場リーダーからみても「職員の気運はあがった」と感じています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	少人数で、各々のペースで、持っている力を発揮し、職員と家庭的な住まいで、地域に出て、菜園で季節の野菜を作り、テーブルに季節の花を飾り、無理なくゆったりと、理念に掲げた暮らしをしています。	「生き生きと～」がADLの低下で難しくなりつつあります。また「各々のペースでゆったりと」はこれまでも職員間の課題として「業務を優先しすぎる」「職員のリズムで動く」ということが全面的な解決には至っていません。	上位者の世代交代があったこともあり、これまで続く理念を見直し、継続するにあたっては事業所の年間目標や個人目標の導入を検討することを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣の八百屋さんや近くのスーパーや商店、また図書館等に出かけている。	自治会の回覧板にはしおさい通信を挟み込んでもらえ、隣近所とのおすそ分けも継続しています。これまで地域に出向いていた数多の行事は変わらず全て出かけていますが、重度化により限られた人のみとなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの資格をもつ職員が、地域で研修会を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに運営推進会議を開催し報告している。また防災上の問題も良く話題になり協力を依頼している。	地域柄原子力発電所や津波のことは議題にしなくても話材となるのが常です。昨年から力を入れているひやりはつとについて外部から助言をもらえることは有難く、事業所運営に役立っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に報告するとともに市担当部署に都度訪問し指導を仰いでいる。	従来は行政が主催していた連絡会を事業者主導としたいとの意向を受け、本事業所が連絡係を担うことになっています。また認知症サポーター養成講座には職員が2回講師として協力しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0(ゼロ)宣言実施。 マニュアルを見直し実態に合うように改善した。	訪れた市役所職員の指摘から拘束排除に係る取り組みを見直しています。マニュアル改訂にあたっては見守りを強化する内容を入れ、職員には一時性、代替性、切迫性に係る説明を改めておこない、また今後は職員間の協議に重きを置くことに決めました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はない。 しかし、敬語の使い方が適切でない場合が多々あり、乱暴な会話として聞こえることがある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見制度に該当している利用者はいないが、研修等に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書等時間をかけて説明を行い、質問にも答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表を委員にして意見を聴いている。 意見箱も設置している。 又、毎月の支払は来訪を願い、直接意見が聞かれる環境を設けている。	新たな契約の家族には運営推進会議への出席の確約をもらえていて、合議の場が増え少し前進しています。メールのみでのやりとりというケースもあり、その人に合った方法で情報共有に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常生活の中で言い易い職場作りに配慮している。毎日のミーティング時や週間ミーティング時に職員に何でも言える場を設けている。	「職員になんでも言ってもらえる事業所になりたい」として様々試みるなか、ひやりはっとの提出率は目に見えて向上しています。現場リーダーからみても「職員の気運はあがった」と感じています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	磐田労働基準監督署に相談、確認をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市、また市包括支援センターの研修に参加したり、近隣の施設の方とも交流したり、研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会や研修会に参加し、相互理解による向上に努めている。メール交換等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々に担当をつけておみや希望を聞くよう努めている。家族からも聞くようにしている。また生活の場面場面からも思いや考え方を推察するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症ゆえに本人が思いを十分に伝えられない事も良くあり、家族からは十分な情報が頂けるよう聞くと共に心配や不安のないようにしている。事あるごとに家族に電話している。また毎日1回全員に手紙を書いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望を聞き入れ、早期に対応し安心を感じて頂き、職員が情報を共有し、職員間で統一した対応が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入浴中の1対1の関係や、食事を一緒に作ったり年中行事の由来を教わったりしながら、支えあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には事細かに連絡を行い、本人を支えるのに協力して頂いている。誕生日や敬老の日など、家族の思いを寄せて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家に帰ったり、家族と墓参に出かけたり、親戚へ出掛けたりできるように心がけている。友人等も自由に来訪している。	毎週2時間程度自宅に戻る人や、正月に泊まってくる人もいます。オカリナ、書道、キーボード演奏とボランティアが繰り返し定期で訪れていますが、現在は覚えていることがなくなり馴染みとまではいきません。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しそうなときは仲介して孤立しないようにし、利用者同士が小さな事でも支えあえるよう支援している(ボタンをはめたり、靴下をはかせてくれたり、車椅子を押してくれる等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅の庭の花の時期を教えてください、招いてくださる関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に一人一人の思いや希望をくみ取り把握して共有している。(センター方式活用)グループホーム専任のケアマネとし、思いや希望を聞いている。	お迎えの家族が自宅とは逆にハンドルを切ることで職員が尋ねたことから「風車が好きだ」ということがわかり、事業所の近場ドライブでは風車が見える道路を選ぶようになった例もあり、観察と傾聴を大切にしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ今までの生活が継続できるように過去の経過をくみ取って把握するようにしている。担当者を、一人一人選任し、他のスタッフが協力する体制を採っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引き継ぎ(毎日のミーティングや週間のミーティング)を十分行って一人一人が総合的な把握が出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人の担当者が毎月モニタリングを行い計画作成担当者(ケアマネジャー)または本人家族等と相談し介護計画書(ケアプラン)を作成している。	1表の内容も記載したA3版の大きさと、ひと目で確認できる一覧としてケアチェック表が在ることが特長です。サービス担当者会議は家族の都合に合わせてなかなか実施に至らず所内のみでおこなうことが増えています。	近々では2家族と開催できていますので、より良い習慣として今後も増えることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別ケア記録やケアプランの実践記録を残し、他方で毎日2回の引き継ぎをし、尚、ケース引継ぎを閲覧して共有し話し合いでケア計画を立案している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズが多様化しており、医療的な希望も増し、看護師の勤務を増やしたり看護師同伴の受診にも柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	障害者グループの配本サービスや市内へのイベントに参加し暮らしを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の意向に沿って医療を受け、かかりつけ医に受診受薬を受けている。	従来のかかりつけ医にも事業所の協力医となってもらい、受診支援は職員が主におこなっています。以前課題としていた誤薬はほとんどなくなりましたが飲み忘れは時折あり、報連相やチェック法を再検討中です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師を採用し日常の健康管理をしている。24時間オンコール体制をとっている。スタッフに周知できる記録をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時度々見舞い、担当スタッフと情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアも実施している。体力レベルが低下した時点から本人・家族の思い、医師の指示等考慮したターミナル計画を作成している。(今年度はターミナル事例はなかった)	終末期の御意向調査は契約時におこない、状態変化に応じて家族と改めて話し合いの機会をもつようになっています。本年の実績はなく、また現状心配される利用者もいません。職員は大半が経験者です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急(意識不明時、ノロウイルス等による嘔吐時対応等)訓練を実施し、初期対応に努めている 入所者個別の緊急時の対応を明記し、救急時に戸惑わないようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難・救急訓練を独自に実施し、防災支援ネットワークに加入し、地域企業の協力体制が出来ている。	N)御前崎災害支援ネットワークに法人加盟しており、「何かあれば」駆けつけてくれる応援者もいます。想定を替え毎月1回おこなうことで持ち出すものなど職員の行動に落とし込まれ、火災通報装置も自動化しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保はスタッフ全員が常時念頭に置き対応している。	裏紙の使用について氏名の入っているものは外すことはまだまだ徹底されず、目標としています。またスピーチロックは接遇を含め研修会を予定しており、標準化に向け動き始めています。	裏紙使用をはじめ本件全般における職員指導を含み改善策の協議を引き続き期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の利用者に担当をつけて希望を聞いたり、自己決定出来るよう支援している。認知症故、言葉で表現できないので思いもくみ取るよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人に担当職員を決め、利用者一人一人を深く理解し対応するよう努めている。 食事に時間がかかる人にはその人のペースで食べていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝はどんな洋服が着たいか聞きながら、清潔感のある服装を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮剥き、着る、味見、配膳、片づけ等無理なく参加している。	お茶の進みがよくない人には家族に相談して珈琲に替えたところ、水分摂取量が伸びています。またご飯の完食にもバラつきがあることから、黒をはじめ茶碗のなかに着色のあるものとして、経過は良好です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食習慣を理解し、一人一人に有った食事(粥・刻み・果物・水分・おやつ)や量を提供している。 食生活推進協議会に所属し、老人食などの実習をしたり知識を得ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや義歯の清掃や夜間の保管等実施。 訪問歯科を依頼し、定期的に口腔内の受診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、全員トイレで行なっている。	最近足元を温める温熱機を購入して快適になったほか、浴室にそのまま入れる構造は大変便利です。毎朝の日課で脚力運動をおこなうとともに、車いすであっても「出来る限りトイレで」を貫き、概ね立位がとれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘しないよう毎日食事で繊維質の多い食材を吟味したり、たくさん食べられる工夫をしている。排便表をつけ、排便状況を常に確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回のペースで入浴している。適宜必要時等にも入浴している。	週2日を清潔保持のためやすとし、重度化しても2人介助で湯に浸かる喜びを味わってもらうことを旨としています。拒否がある人もいますが、「人を替え、時間を置き」として無理強いすることなく入ってもらえています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝方の日光浴や、近隣への買い物等安眠できるようにしている。就寝や起床等も自由にしており自身で安眠できる時間に睡眠を取っている。添い寝屋スキップで安心を感じる利用者もいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	概略は理解していても、服薬の本質の理解ができていない場合があるので、服薬の本質の理解と、一日分のサンプルを全員作り確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理いよう役割を持っていただき、環境を整えやっけていただき、感謝の言葉を掛け達成感を感じてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物や図書館、コンサート、産業祭、祭典、花見、かかし祭り、イルミネーション等々、都度出かけている。	訪問時にもお茶を飲みながら外気浴を愉しんでいました。また午後からは「穴を掘って炭をおこして焼き芋100本」とのミニイベントがあり、利用者もアルミホイル包みに勤む姿が印象的でした。外出支援が例年通り豊富ですが、状態低下により個人の頻度に差がでてきます。	従来の取組みを変わず続けていることは評価されますが、ADL低下となった利用者に向けたメニュー開発等、現状に即し変化することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実際に使える人が少なくなりましたが、隣の八百屋やスーパー、商店に出かけて支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	少し前まで手紙や日記等書けたが、最近はいなくなってしまったので、職員が月に一度簡単な手紙を家族に書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花がテーブルにあり、食事は利用者と協働作業でつくっている。目の前で調理され匂いや香り、調理の音等生活感や季節感を感じてもらっている。	併設のデイサービスの様子がまじかにあり、1ユニット以上の賑わいがリビングにはありません。また小さなキッチンに職員と利用者が並んで立つこともあり、狭小が家庭生活を再現しているかのようにも映ります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の個室に自由に行き来したり、気の合う利用者同士で過ごしたり、思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や家具の配置等思い思いに実施。転倒予防等も本人の希望に沿って配慮実施している。	ほとんどの利用者が備え付けのクローゼットに一式収めているため、部屋のなかはスッキリしています。居室担当が写真も添えて手作りしたカレンダーが壁いっぱい貼られ、回想法も兼ねられることが視え信愛が伝わります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	流し台、テーブル、浴室のシャワーチェア、物干し竿等の高さ、物干し場所等も風雨の当たらない所に設置してある。		